

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Review)

博士の専攻分野の名称 (Degree)	博士 (マネジメント)	氏名 (Author)	大上麻海
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title) イノベーション行動における他者からの資源動員に関する研究 —製造業A社の研究開発部門の事例—			
論文審査担当者 (Dissertation Committee)			
主査 (Committee chair)	准教授 相馬敏彦		印
審査委員 (Committee member)	教授 星野一郎		印
審査委員 (Committee member)	教授 加藤厚海		印
審査委員 (Committee member)	教授 林幸一		印
審査委員 (Committee member)	教授 原口恭彦 (東京経済大学)		印
〔論文審査の要旨〕 (Summary of Dissertation Review)			
1. 概要 組織におけるイノベーションの達成には、構成員間での協力が必要である。ある構成員の生成したアイデアは、他の構成員からの資源動員を経て試作、試行され、組織内で実現に至る。従来、組織レベルでのイノベーション・プロセスに着目した研究は、このような組織内での資源動員が、構成員間の相互作用の中で、なかば自然発生的に生起すると捉えていた。しかし、組織構成員が無条件に、自身のもつ有限の資源をアイデア生成のために費やすわけではない。組織イノベーションの成功条件を知るためには、資源動員をめぐって、アイデア生成者と資源保持者との働くダイナミクスを明らかにしなければならない。このような背景の下、本研究はアイデア生成者のどのような言動がアイデア実現をもたらすのかを明らかにした。			
2. 論文の構成 本論文は、序章と終章を含めて8つの章から構成される。各章の概要を以下に示す。 序章では、本研究の目的と問題の所在を述べる。 第1章では、イノベーションに関わる行動が、アイデア生成に関わるものと、アイデアの実現に関わるものに大別できることを示し、それぞれを定義する。 第2章では、アイデアが生成され実現に至るまでの仲介プロセスとして、生成者以外の構成員による資源動員があることを示す。そして、アイデア生成者は資源動員を促すために政治的行動をとるものの、しばしばそれが失敗に終わることを例証する。資源保持者は、資源保存の志向性をもつからである。一方、他者志向性をもつアイデア生成者が政治的行動をとるならば、保持者			

からの資源動員がなされる可能性が演繹的に示される。資源の受け手による他者志向性は、提供資源の有効性のシグナルとして機能するためである。

第3章では、議論を整理し本研究の枠組みを明示し、検証のための調査概要を報告する。common method bias への対処として、アイデア生成に関わる因子と実現に関わる因子の弁別性も予備的な分析によって検証した。

第4章では、組織内の他の構成員からアイデア生成者への協力を従属変数として、生成者の政治的行動と他者志向性を独立変数とする回帰分析を行った。結果として、政治的行動が他者志向性を伴う場合に他の構成員からの協力が得やすいことが示された。

第5章では、アイデア実現経験を従属変数に設定し、アイデア生成、政治的行動、ならびに他者志向性の交互作用効果を検証するための回帰分析を行った。結果として、政治的行動が他者志向性を伴う場合、アイデア生成の高さが実現経験を高めることが示された。

第6章では、二つの実証結果に基づき、アイデア生成からアイデア実現への影響を政治的行動と他者志向性が調整し、その仲介過程としてアイデア生成者以外の構成員からの資源動員があることをモデルとして明示した。

第7章では、全体の総括と同時に、今後検討されるべき課題を示した。

3. 論文に対する評価

本研究の学術的含意は、大別して二つある。第一は、組織イノベーション研究で示されてきた資源動員のプロセスについて、検討の対象を個人レベルに絞ることで、資源保存をめぐる構成員間のダイナミクスの存在を示した点である。第二は、イノベーションにおける資源動員が成功するための調整条件として、アイデア生成者のもつ行動や態度の効果を実証的に解明した点である。また、実践的な含意として、アイデア実現には、アイデア生成以外の言動もまた必要となることを明らかにした点をあげることができる。

以上、審査の結果、本論文の著者、大上麻海 は博士（マネジメント）の学位を授与される十分な資格があると認められる。

備考 要旨は、1,500字以内とする。